



発行所 社団法人 長崎県手をつなぐ育成会
発行者 甲田 裕
〒852-8104 長崎市茂里町 3-24
長崎県総合福祉センター 県棟 4F 408号
Tel : 095-846-8730 Fax : 095-846-8738
E-mail : ikuseikai-tewo@k5.dion.ne.jp
発行日:平成 26 年 12 月 15 日

第1回全国手をつなぐ育成会連合会 全国大会島根大会が開催されました！

去る9月27～28日に島根県松江市において「第1回全国手をつなぐ育成会連合会全国大会島根大会」が開催されました。長崎県からは18名の方が参加されましたが、全国各地から約2100名の方が集い、盛大な大会となりました。大会では長崎県より諫早市の音瀬光司氏がこれまでの業績を称えられ会長表彰を受けられました。

中央情勢報告 ～あらたな全国の育成会に！～ 久保会長 コレからを語る



前身の「全日本手をつなぐ育成会」は、62年前に知的障害児を持つ母親3人が提唱して設立され、1995年「社会福祉法人全日本手をつなぐ育成会」と名称を改め、障害者の生活を守るために様々な活動を進めてきました。しかし、急激に進む少子高齢化や社会福祉法人の在り方が問われる社会情勢のもと、障害者福祉の運動を進める団体としてふさわしい組織になるために、2014年3月31日をもって、社会福祉法人格を自ら返上するに至った経緯を、まず語られました。当会を長年支えてきた会員の高齢化は着実に進んでいること、一方で、福祉サービスが充実するなか、共通の課題のために障害者運動を進める仲間を若い世代に得にくくなってきている現状認識を述べられました。先人の思いを大切に引き受けながら、これからの担う若い力を中心にした会員の拡大が見込める組織へと生まれ変わるよう、新たな時代にふさわしい、私たちの願う共生社会の実現に向けて、息の長い運動体としての活用が大切であると訴えられました。その上で、各都道府県・政令指定都市育成会のそれぞれ既存の仕組みを活用して身の丈にあった「全国手をつなぐ育成会連合会」として、改めて組織を設立したことを熱く語られました。全国の育成会56団体は8ブロックで地域連携を強化し、地方の特性を生かした活動に力を入れつつ、重要課題を次の3点、①児童学齢期からの息の長い支援、②インクルーシブ教育の推進と特別支援教育の充実、③地域支援及び家族支援の強化として、育成会活動の原点である「障害者の権利擁護」と「必要な政策提言」を行う運動を進めていきます、と力強く宣言されました。これからの育成会活動は、全国のそれぞれの育成会が、まず自らの組織を強化すること、次に全国手をつなぐ育成会連合会を担っていただく事務局(滋賀)・政策(静岡)・権利擁護(兵庫)等6地点との連携を図りながら、連合体としての全国の組織が協力していくことが体制作りには重要だと再認識させられました。(三村)

長崎がんばらんば大会2014

過去最高の135個のメダル(金39、銀35、銅61)を獲得して熱戦の幕を閉じました。応援ありがとうございました！
選手・役員のみなさんお疲れ様でした！！

(関連記事を4～6ページに掲載)



**第1回全国手をつなぐ育成会連合会全国大会
島根大会（本人大会）**

NPO ふれあいネットワーク・ピア

支援者 吉岡祐二

本人大会は、「働く」「暮らす」「本人活動」の3つの分科会に分かれて開催されました。本人部会では、「地域の中で生活しやすくなるにはどうしたらいいのかなど、活発な意見が数多く見られました。本人さんの発言には、「私たちに関することは私たちを交えて決めていくようにしてください」という内容の声、必ずといってよいほどあがります。今回の本人プログラムでも、参加者からそういう発言がありました。これには二つの思いが込められているように思います。日々の暮らしの小さなことでも、本人の気持ちを聞いてください。本人の暮らし全体に関わる施策検討の場に、本人の代表を入れてください、という



ことです。知的障がいのある方たちと関わりのあるすべての人が、まず本人の表現に耳を傾ける。来年の本人大会がそこから支援を考える場になるよう願って報告とさせていただきます。

本人部会に参加して

NPO ふれあいネットワーク・ピア

吉田 良一

私は本人部会の「暮らす」をテーマにした第2分科会に参加しました。「暮らし」というテーマで、一人暮らしをしたい、入所施設を出てグループホームで暮らしたい、結婚したい等、様々な意見がでました。私も先日、結婚式を挙げて、幸せな生活を送っています。一人一人の願いが叶うやさしい地域にしておくために、私たち自身も当事者活動に積極的に取り組んでいきたいと思いました。

**平成26年度 長崎県手をつなぐ育成会
障害者就労支援セミナー開催**

去る11月27日、長崎市油木町のかぶとがにアリーナにおいて、第5回障害者就労支援セミナーが開催されました。約120名ほどの参加者で、本人さんたちを中心にした活気ある研修会となりました。



午前の部は、障害者がたくさん働いているジブラルタ生命の安村和之氏（ファシリティチームファンクショナルチームリーダー）と中脇明子氏（人事開発チームマネージャー）、そしてこの3月から働き出した矢野優介さん（ファシリティチーム）が登壇されました。同社では東京と長崎両都市にある同部署で約半数が障害者。しかし、これまで知的障害者を雇い入れた経験が少なく今回長崎で初めてという話でした。他に障害者を雇用するための部署もあり、障害特性を十二分に生かした現場のシステムがあり、ハード面の整備にもまさしく合理的配慮の行き届いた職場環境のようでした。また、矢野さんの自己紹介の中でもありましたが、職場では、自分の障害を正しく他の人に伝え、必要な支援をきちんと得ることが大事だと言う話はとても印象的でした。（障害を駄目なことにとらえず、できないところに支援をしてもらおうという新しい障害者観をしっかりとっておられるようでした。）

午後からは、長崎市育成会の長島志津代さんをファシリテーターとして、ダイレックス福田店で働いている安武希世美さん、長崎電気軌道の家永政嗣さん、ジブラルタ生命の矢野さんを囲んでのシンポジウムとなりました。その他に障害者生活・職業センターの原所長と長崎市育成会陽香里工房山田直子施設長が支援者として登壇されました。3人それぞれ

れが、毎日の仕事の大変さや楽しさを話されましたが、3人とも自分の仕事に誇りと生き甲斐をもっていき様が言葉の端々に伝わってきました。また、仕事をしやすいように自分なりの工夫があり、段ボールの読めない漢字に振り仮名をふったり、電車の停留所の清掃の仕方や倉庫管理は誰にも負けないなど、立派に仕事をこなしておられる様子がうかがえました。



最後に、ファシリテーターの長島さんから、働いている障害者のために、今育成会として何をすべきかという問いかけの言葉がありましたが、地域ではたらく障害のある人たちの応援団として、育成会は地域に向けての発信をし続けなければと思いました。

長崎県と県手をつなぐ育成会との 意見交換会 開かれる

毎年恒例の長崎県との意見交換会が9月8日に長崎市元船町の橋本商会会議室で行われました。前号では、「長崎がんばらんば大会」を控えその記事を中心としたことから、この意見交換会のご報告が遅れましたことを、最初にお詫びいたします。



さて、当日は長崎県育成会からは会長を始め理事の参加者 11 名、長崎県からは障害福祉課園田課長と関係各課の担当者9名の方たちが出席し会はスタートしました。前もって、長崎県育成会として各市町育成会からの要望事項等をまとめ、長崎県へ提出をしており、その内容に解答を頂くと言う従来のシステムで会は進められました。

要望事項を障害福祉、教育、労働などに分け、合

わせて 10 項目となり多岐に亘る内容で、設定された時間も十分と言えない状態でしたが、それでも育成会の提案に対する長崎県の的確な指摘も含めての丁寧な解答は、育成会にとっても新しい視点を広げられる良いチャンスとなったようです。

その中でも、65歳以降の障害のある人たちが、介護保険事業を優先して利用するという現状について、県としては、基本的には国の施策であって直接的な解答には苦慮されたようですが、介護保険事業に移行することで、支給量が不足することなど課題は大きく、そのような場合、要介護認定の変更や併給の適用で解決できるところもあるかもしれないので個別の事例として各市町窓口へ相談するようにという回答でした。ただ、移行時の支給量の変化等については国の方でも課題としており、厚生労働省でも実態調査を行っているところで、育成会の要望の趣旨も伝えていきたいという回答も合わせていただきました。その他の要望については、市町行政へ要望していくべき内容も多くありましたが、それらの内容へも、詳しい解答をいただきました。

今後、県育成会としても、県への要望事項をしっかり精査し適切な調査検討をもって、この意見交換会に臨むよう益々努力していきたいと意を新たにいたしました。(谷)

《 要望事項 》

- 障害福祉関係
 - ・高齢化に伴う介護保険への移行について
 - ・ヘルパー提供時、居宅事業者の自家用車利用に配慮を
 - ・相談事業所の運用等について
 - *相談事業所の運用について
 - *5歳児検診の実施について
- 教育関係
 - ・特別支援学校整備について
- 労働と雇用
 - ・ジョブコーチ制度について
 - ・優先調達法について
- その他
 - ・高齢化に伴う健康管理について



長崎がんばらんば大会

オープニングも競技もがんばりました

<がんばらんば大会オープニングセレモニー報告>

45年に1度のがんばらんば大会長崎大会のオープニングセレモニーに、県下育成会と長崎県知的障害者福祉協会の当事者等 総勢403名が参加しました。演目は「ぶらぶら節」です。

半年前から本番に向けて準備と練習に取り組んできましたが、全体で集まって練習することができず、DVDをもとにそれぞれの事業所の担当支援員を中心に練習をして本番に臨みました。当日は、あいにくの天気でしたが、踊るときには、雨も止み皆さんのやる気が天に届いたようです。

いよいよ本番、全体の練習ができなかったため本番の演技が心配でしたが、利用者の皆さんの笑顔いっぱいでのいきいきとした元気な踊りを観てその心配も吹き飛びました。全体の踊りの中でも一人一人の個性あふれる踊りがあり、とても印象的なステージとなりました。会場からの大きな拍手の中、退場される参加者の皆さんの晴れやかな表情がとてもすてきで、約4分間の出番でしたが、皆さんの「ぶらぶら節」が、がんばらんば大会の成功の一端を担ったのではないかと考えております。尚、中村法道知事よりオープニングプログラム参加に対し感謝状をいただきました。

参加者の皆さん本当にお疲れ様でした。 (オープニングセレモニー出演 責任者 田坂嘉朗)



以下 各競技に関われた方たちからご報告を頂きました。また今回掲載できなかった競技については次回掲載する予定です。

<バスケット競技 がんばらんば大会を終えて>

三菱重工総合体育館で知的障害者バスケットボール全国大会がありました。男子は大阪市、横浜市、



秋田県、福岡県、高知県、愛知県、長崎県の7チームで優勝は横浜市でした。女子は東京、秋田県、岡山県、堺市、沖縄県、長野県、長崎県の7チームの参加で優勝は東京都でした。試合の経験不足だったのか試合の流れがつかめず、日頃の練習のようにシュートが決まらず、女子は初戦の大阪市チームに敗退してしまいました。バスケットはチームを作り4年目となりますが、バスケット経験が少ない選手が多く、最初は基礎練習だけの繰り返しでした。そのチーム

で試合ができるようになったのは2年ぐらい前からです。そうやって自分たちなりに努力を重ねてきましたが、やはり全国の壁は高かったですね。来年の「和歌山国体」に向けてみんなで頑張りたいと悔し涙を流した選手もいましたが、多くの方が会場まで応援に来ていただいたことが選手の大きな励みになったと心よりお礼申し上げます。ありがとうございました。

来年の「和歌山国体」に出場できるよう頑張りたいと思っています。

<サッカー競技 最後まで全力で>

第14回 全国障害者スポーツ大会 長崎がんばらんば大会は、皇太子殿下御臨席を仰ぎ、開会式の最大の見せ場である聖火点火式には知的サッカー競技の大曲祐太選手が最終聖火ランナーとして点火台上に登り無事に役目を終える事が出来ました。



知的サッカー競技は島原市にて開催され一回戦で岐阜県に5対0と大敗してしまい交流戦へ！ 交流戦では、大阪府に勝利し、つづく沖縄戦にも勝利しました。決勝戦は、札幌市が東京都を破り初優勝にて閉幕しました。多くの方が会場まで足を運んで頂き、応援して頂いた事で、大会前からの怪我に試合中の怪我と何人もの選手が足を引きずりながらも、最後まで戦え抜く力をもらった

のでは無いかと思えます。また、今大会参加にあたって、多くの中・高校生、社会人チームと試合を行なってきました。家族や仲間、仕事先の方々など多くの方に支えられてきた事を忘れずに、来年の紀の国わかやま大会では、メダルが獲得できるように、頑張りたいと思います。

<陸上競技 長崎がんばらんば大会を終えて>

今年度は、身体33名、知的31名の計64名と、過去最大の出場選手数でした。そのため、身体と知的それぞれが別の宿舎で、連絡等で不都合が生じましたが、連絡ボードやこまめな連絡を行うことで選手、スタッフともに見通しをもった行動ができるようになったと思います。大会初日は、小雨が降る寒い中、金メダル、銀メダル、銅メダルそれぞれ五個ずつを獲得しました。中でも、男子1500mでは大会新記録を出し、チームに勢いをつけることができました。2日目、3日目も勢いそのままに、合計55個のメダルを獲得することができました。本番を迎えるまでには、強化練習会を思うように開催できませんでしたが、限られた時間の中で効率的に練習できたと思います。中でも、男女混合リレーに関しては、強化練習会以外にも個人的に練習会を設けて練習に励みました。練習開始時55秒台だったタイムが、当日は50秒22と、チームベストを出すことができました。今年度は高校3年生が中心のメンバーでした。来年度の和歌山大会に向け、新たに強化策を考えていきたいと思えます。



<フライングディスク競技 チームワークで乗り切った！がんばらんば大会>



長崎がんばらんば大会フライングディスク競技は、監督目標をメダル18個と宣言し、監督も選手も地元開催とあって『がんばらんば』が、いつしか『なんとかせんば』と意識が強くなり、合同練習から体中に力が入りっぱなしでした。大会も始まり、長崎の山手特有の海からは吹き上げと、山からは吹き下ろしと、風が幾重にも舞う難しいコンディションの中（2日目はテントも舞う悪コン

ディション）アキュラシー競技では、メダル13個と予想を超え、2日目は、キャプテンを中心に円陣を組み、『笑顔で大会を終わろう』と気持ちを新たに。難しいコンディションの中で、ディスタンス競技で予想以上の9個のメダルを取りました。これは、チームワークでもぎ取ったメダルじゃなかったかと思えます。円陣を組むことで、メダルを取れた人、取れなかった人も笑顔で一つになり終わることが出来たことは、今大会の最高の友情のメダルを取れただと思えます。

アキュラシー競技 金1個・銀3個・銅9個 ディスタンス競技 金2個・銀2個・銅5個

<ボウリング競技 チームワークで獲得したメダル8個>

ボウリングチームは、14人部屋（男組）と6人部屋（女組）のホテルに宿泊しました。食事は勿論、入浴もほとんど一緒という大家族の雰囲気をかもしながら、精神的な団結力が高まる中、競技に臨みました。12人のうち前半の2ゲームが終わった段階で、2位が2人、3位が4人で目標のメダル6個にかろうじて可能性を持てるという状況でした。後半の2ゲームで応援の後押しを受け、選手も踏ん張り、銀メダル3個、銅メダル5個を獲得しました。金メダルこそ逃しましたが、計8個のメダルを獲得しました。メダルを獲得した選手は、練習の成果を大舞台で発揮でき、本当に素晴らしかったと思います。メダルを逃した選手は、悔しい表情をしていましたが、その目は来年を見据えて頑張るぞ！と燃えていて、たくましく感じました。選手も支援者も競技中の選手の応援に加わって、全員のチームワークで獲得したメダルとなりました。一つになったみんなの心が素晴らしい金メダルだったと感じています。



<水泳競技 応援ありがとうございました！>

平成26年11月1日から3日までの水泳競技が大成功のうちに終了しました。私は大会の競技本部で責任者として「がんばらば大会が国体の後のこの大会の終了ではじめて長崎国体・障害者大会がすべて終わる」と周りの方から言われ、緊張して大会運営にあたりました。11月1日 雨を心配しながらも予定通り開会式は行われました。今までの全国障害者大会では会場の関係などで、水泳チームはなかなか開会式には出られませんでした。今回は、長崎県水泳連盟役員が全選手達の思い出に残るようにと開会式への参加を取り計らいました。選手にとって良い思い出となったろうと感じています。育成会からは柳迫選手（長崎市）が25m、50mバタフライ1位 200mメドレリレー3位。永山幸世選手（長崎市）が、25m、50mバタフライ4位、水泳競技はリレーを含めて金メダル9個、銀メダル8個、銅メダル9個のメダル獲得となりました。



永山さん親子

金メダル!!



育成会の皆さまには心からの応援を頂き本当にありがとうございました。



ながさき **LOVE** 地域で育成会！**大村市育成会**

がんばってま〜す！

昭和33年、池田ソイ会長と数名の親が集まり「大村市手をつなぐ親の会」を創られました。それから半世紀有余、多くの先輩方のお力で小規模通所授産施設として誕生した「大村さくらの家」も、障害者自立支援法の施行に伴い、障害福祉サービス事業所（就労移行支援・就労継続支援B型）として新たな歩みを始めています。利用者さんも年々増加の一途を辿り、施設の定員オーバーが間もなく、という状況を迎えています。このため当育成会としては「さくらの家2号館(仮称)」の設置に向けた対応を迫られているところです。困難もありましょうが「働きたい」利用者さんのために、1日も早い新事業所の実現に向け全力でがんばっています。応援してください。

歩み（直近30年抄）

- 昭和61年 「さくら福祉作業所」開所
 平成15年 社会福祉法人「大村市手をつなぐ育成会」認可
 16年 小規模通所福祉作業所「大村さくらの家」開設
 20年 障害福祉サービス事業所「大村さくらの家」に移行
 21年 創立50周年を祝う会開催並びに創立50周年記念誌発行

【年間の主な活動】

- 1月：新年親子の集い / 還暦と成人を祝う会
 5月：ゆうあいスポーツ大会
 6月：大村市手をつなぐ育成会定期総会
 8月：大村夏越まつり出店
 10月：大村健康福祉まつり出店
 11月：ボウリング大会

*各種研修会参加、カラオケ大会

広報「花しょうぶ」発行、リサイクル活動



新年親子の集い／還暦と成人を祝う



ゆうあいスポーツ大会にて堂々の入場行進



◆ “さだまさライブ” のファイナルステージで終えた「長崎がんばらば大会」は、アスリートの皆さんの頑張りで期待以上の好成績を残すことができて“感動をありがとう”と、関係者の皆さまを含めてお礼申し上げます。3年前、「障害者スポーツ大会の認知度が低い」と、スポーツ協会土岐会長を先頭に県下の市及び町を訪問し、大会旗に寄せ書きを頂いたころの活動など思い出しています。ハンディを持つ障がいのある人たちに“感動を与えるスポーツ”は、継続していくことが大切です。どんなサポートをしていけばよいのか、皆さんの知恵をお聞かせ下さい。◆この大会に集中していたこともあり、県育成会活動も3/4期も終わりに近くなってしまいました。この間、世界では民族間の紛争は一段と深刻さを増し、富の争奪が深刻化したと受け止めています。民族の独立運動は、力で抑止することは出来ないところまで来ているのでしょうか。◆一方、2015年秋、消費税10%に向けた動きは、世界的なデフレ傾向に打開策がなく、「急速な高齢化社会を支える切り札」としての増税策は「未知数」というところかと思われまます。障害者福祉の充実のためにも、社会補償費の確保は欠かせないと感じています。◆佐世保での女子殺害事件は、大きな衝撃を与えました。「命の大切さ」について、教育機関をはじめとして多くの公的機関が携わってきましたが、回避することができなく悲惨な結末を迎えてしまったことは痛恨の極みです。是非、「県民一人ひとりが、果たすべき責務はなにか」を提起して欲しいと感じています。どんなにすばらしい「マニュアル」が整備されても、日常生活の中で活かされなければ意味がありません。地域で暮らす人々が「支える」を親身になって実践してこそ、明るい社会がくるのではないかと考えるこの頃です。◆9月下旬、長崎県労働局・ハローワーク主催「障害者就職面接会」が県南（長崎県下4か所）で開催されました。37の事業者が参加され、120名を越える求人提示がありました。障害者個々の特性を十分に理解頂く機会を与えて下さることを切にお願いしておきます。(甲田 記)



「手をつなぐ」は、知的な障害のある当事者（本人・家族）に関しての教育・福祉・労働等々の諸施策を中心に、全日本手をつなぐ育成会が編集・発行している月刊誌です。文字どおり、全国の仲間が「手をつなぐ」ために役立つ情報誌です。年間 3,600円 B5版 48ページ
長崎県手をつなぐ育成会までご連絡ください。
申込みは TEL 095-846-8730 FAX 095-846-8738 へ

病気・ケガの入院 個人賠償補償 被害事故の解決

障がいのあるご本人と、そのご家族・施設従事者のための総合保険です。

ぜんちの
あんしん保険

平成25年料率改定

少額短期健康総合保険(無告知型)2012年新設

*この広告に商品の概要を説明しております。ご契約の際には必ず「あんしん」
【重要事項説明書】をご確認ください。

保障内容(A-1プランの場合 年間保険料17,000円)

死亡保険金	10万円	法律相談費用	5万円 <small>までの実費</small>
特定重度障害保険金	10万円	弁護士委任費用	100万円 <small>までの実費</small>
入院保険金	1日につき 8,000円 <small>※1</small>	接見費用	1万円
入院一時金	10,000円	個人賠償責任保険金	1,000万円 <small>※2</small>
傷害通院保険金	1日につき1,000円 <small>※1</small>		

※1: 一回の入院または一回の通院につき、30日限度。
※2: てんかんによる入院の場合は一日につき4,000円となります。

詳しい資料のご用命は、下記代理店へお願いいたします。

○取扱代理店

有限会社トータルサービス
(担当: 向井)

TEL 095-832-2430

〒850-0033 長崎市万才町6-35 三井生命長崎ビル5階

○引受保険会社

ぜんち共済株式会社

〒101-0032 東京都千代田区岩本町3-5-8
岩本町シティプラザビル 5F